

# JICA シニアボランティア 千葉

SVニュース千葉 第37号

2022年10月1日発行  
千葉県JICAシニアボランティアの会  
chibajicasv02@gmail.com



## 本号目次

公開講演会・ 定期総会報告	1
活動報告会	2-5
出前講座	6-7
県庁訪問 連携進捗状況	8

## 公開講演会・2022年度総会を開催

2022年5月7日(土)、浦安市国際センターにおいて、当会の年次総会と第28回公開講演会を行ないました。新型コロナウイルスは落ち着いており、公的にはゴールデンウィークの期間もまん延防止などの措置が取られない中でしたが、マスクの着用、スクリーン設置などの感染防止措置を取り開催しました。

公開講演会は、一般市民にも開放しましたが、やはり新型コロナウイルスの影響で参加者は例年より少人数となりました。また、会場に来られない方々のために動画配信を行うという対応を取りました。この講演会は、JICA東京センター及び浦安市国際センターと共催し、千葉県、浦安市、および浦安市教育委員会の後援を受けて実施しました。

### 第28回公開講演会

「香港から見た中国 ―異文化の認知と共生―」



今から28年前、香港が中国へ返還される前に3年間、在香港国際交流ディレクターとして香港で活動された北垣勝之氏の講演会が行われました。

はじめに、中国と香港の歴史、地理、人口、社会、経済格差など同地域の概要説明の後、香港が国際自由都市として発展を遂げた背景は、金融・物流・観光・不動産の基幹産業の発展によるものとの説明がありました。そして、香港の魅力は、世界の珍味など豊富な食材を利用した郷土料理、高層ビルでの優雅なアフタヌーンティなど幅広く楽しむこと、さらに、充実した医療サービスの提供、安定した雇用、個人の自由闊達な言動が許されていることが挙げられるとの説明がありました。

一方、99年間の租借を経て中国に返還された後、徐々に中国共産党の干渉が増えており、住民寄りの記事を書いていた新聞記者や民主運動家が拘束され、さらに、国家安全維持法が策定され、香港議会議員の立候補者が中国寄りの候補者に制限されるなど、香港の中国化が進みつつあるとの説明が

ありました。

続いて、参加者より返還時に50年間は一国二制度が守られるとあったが、その約束が守られないのは何故か、との質問に対して、同氏から、中国共産党が強権を発動し香港に影響力を高めた背景には、中国のGDPが世界2位になりその経済発展をベースに強国化したことが挙げられるとの解説がありました。

加えて、今後の中国と香港の安定には、双方の異文化の認知と共生の精神が必要との考えが北垣氏より提示されました。

### 2022年度通常総会

来賓として、JICA東京センター所長 田中泉氏、浦安市国際センター長 知花大輔氏、JOCV千葉OB会会長 西村邦雄氏に御臨席いただき開催しました。総会は当日参加24名、委任状提出者34名の計58名の参加があり、会員総数77名の過半数の参加を確認、有効に成立しました。

総会では、三輪会長を議長とし、2021年度の活動報告と会計報告、2022年度の活動計画、予算、役員人事等の議案を審議、すべての議案が承認されました。

2022年度の活動計画として説明、審議された内、次の2点を報告します。2022年度は暫定的に会費の徴収を見合わせる（近年繰越金が多い状態が続いており、年度末繰越金のレベル適正化のため）、及び青年海外協力隊千葉OB会と連携した活動を検討する、が承認されました。



## 第33回活動報告会



9月10日(土)、千葉市国際交流協会プラザ会議室において、JICA東京田中泉所長 JICA千葉ディスク木村明日美氏、および青年海外協力隊OB会の西村邦男会

長の来賓を迎え、当会会員3名による報告会を行いました。

新型コロナの第7波感染状況から感染防止対策をとり、実施しました。

3人の発表者の内、最初の吉田氏の発表内容は、前回まで

に掲載しましたので、今回は割愛しています。

その他の2名の活動報告は、派遣国で体験したことのほか、その体験を通じて学び分析した結果をまとめて報告する内容になっています。

活動報告をリアルに伝えるため、編集者が掲載文をまとめるのではなく、主に報告者が用意したレジュメをもとに、以下の通り掲載します。



### 演題：異文化理解について

登内 明 (ジャマイカ：経営管理、他海外滞在15年)

#### 1. はじめに

本年5月28日、八街国際理解大学において一般市民向けに受講生参加型で講演を行いました。異文化理解は、本日の講演会に参加されているSV経験者と一般市民とは幾分か違いがあると想像します。一般市民の考えや意見を交えつつ、異文化理解についてSVの皆さんと議論し理解を深めたいと考えています。

#### 2. 本テーマの背景

筆者は2011年1月からJICAシニアボランティアとしてジャマイカ国キングストン市にあるジャマイカ生産性向上センターに派遣されていました。指導科目は経営管理/生産性向上であり、中小規模の公営、民間企業の業務効率の改善をはかり生産性を向上させることです。トヨタのカイゼン、5S、5 WHY手法などの活用を指導するためワークショップや講演会を開催してきました。



現地では工場の生産性など殆ど考慮していない環境であるため、極めて初歩的な指導であってもその効果は当初から目に見えて現れて、周りの人達から感謝もされていました。しかし時間とともにまた元の悪い状況に戻りまた指導を入れるということが繰り返して起っていました。

現地の関係者は口をそろえて生産性改善手法を賞賛し、日本が発展してきたことがよく理解できたと言っていました。しかし突っ込んで調べてみると、彼らは素晴らしい手法であることは理解してもそれは日本の文化であるからできるのであって、ジャマイカの文化では定着は難しいということがわかってきました。

異文化社会で仕事を進める上での障壁はどの国でも感じていたことですが、ジャマイカでの活動を通して異文化を理解する

というテーマを深掘りする必要性を感じた次第です。

### 3. 講義内容

#### 3.1 文化の定義について

Wikipediaでは、文化は、以下のように定義されています。

「文化とは人間が社会の成員として獲得する振る舞いの複合された総体のこと。社会組織ごとに固有の文化があるとされ、組織の成員になるということは、その文化を身につける（身体化）ということである。人は同時に複数の組織に所属することが可能である。異なる組織に共通する文化が存在することもある。」

#### 3.2 振る舞いに影響する要因

##### ・自然環境

気候、食料、海洋、生物形態、疫病、領土、国境・・・

##### ・人的環境

教育、習慣、政治、経済、人口動態、年齢、身体的特徴、芸術、宗教、技術・・・

これらの環境の違いが差別につながることもある。その一例として、身体的特徴（目の色の違い）により差別が発生する実験を紹介しました。

\* YouTubeで「青い目、茶色い目」検索、視聴可

これは約50年前の1968年4月に行われたアメリカ中西部のアイオワ州の小学校での人種差別についての実験授業です。白人の子供たちだけが集まるクラスで、青い目を持つ子供は優れ、茶色の目の子供は劣っていると決めて学校生活を過ごさせました。キング牧師暗殺直後のことです。小学3年生の担任だったジェーン・エリオット先生がキング牧師の暗殺事件の後、黒人指導者に無神経な質問をする白人のインタビュアーの「上からの視線」を目の当たりにし、「子どもたちを差別意識というウイルスから守りたい」と実験授業をしたものです。

主観的な差異は、仲の良かった生徒たちの間に奇妙な空気を流れさせる。これは、支配的な集団が、下位と認定された人たちの上位に立ち、支配する構図を作る社会の仕組みが形作

られるのを示すものでした。

### 2.3 自分にとって異文化の人とは

参加者への質問：

「皆さんにとっての異文化の人とはどのような人のことでしょうか？以下の中から、自分にとって異文化だと思われる人を選んでください。」

在日外国人  欧米人  アジア人  日本人  他府県の人  異性  先輩や後輩  親友  兄弟  両親

(以降原沢伊都夫氏資料より一部抜粋)

一般市民は、上記のうち3から6人を自分にとって異文化とした方が最も多かったが、SV経験者はすべてが異文化と考える方が多かったように思いました。各人の経験により受け止め方はちがうので、正しい回答はありません。

私は、自分以外はすべて異文化なのではないかと思います。

### 3.4 日本の文化から思い浮かべること

参加者への質問：

「皆さんは『日本の文化』から何を思い浮かべますか？どんなものでもかまいません。皆さんが思う典型的な日本文化を3つまで思い描いてください。」

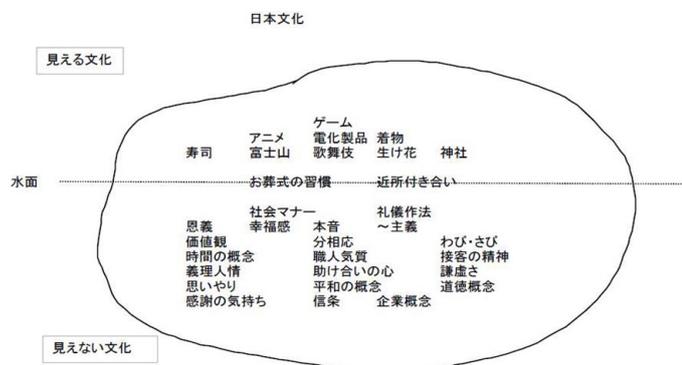
一般市民からは、謙遜、時間厳守、古来芸能文化など習慣や伝統的なものに要約されました。

### 3.5 見える文化と見えない文化

参加者への質問：

「以下の項目はそれぞれが日本文化の一部です。冰山モデルにしたがって、見えるもの(○)、見えないもの(×)、どちらとも言えないもの(△)に分けてください。」

- OKサイン ( )
- 大相撲 ( )
- 生きがい ( )
- お葬式 ( )
- そばの食べ方 ( )
- お辞儀の習慣 ( )
- 夫婦の役割 ( )
- アニメ ( )
- 死生観 ( )



### 3.6 自分にとって常識とは

参加者への質問：

「上記は日本では常識と考えられることからであり受講生は殆どが同じ意見を持っていました。しかし文化が異なる外国では常識が非常識になることがあります。」

次ぎ挙げる事柄は皆さんにとって当たり前のことですか？そう思う人は○を、そう思わない人は×を、どちらとも言えない人は

△を記入してください。」

- く ) 半年ぶりに両親と再開した時抱き合っている。
- く ) 友人との約束では、約束の時間より前に着くように心がける。
- く ) (春夏秋冬の) 季節に合わせて着る服を変える。
- く ) 他人に家族の自慢話を積極的にしない。
- く ) 上司の家に食事に招待されたらお礼の言葉を述べる。一週間後に会ったらまたお礼を言う。
- く ) 友人と食事に行ったら割り勘にする。
- く ) 初対面の人の顔をジロジロ見ない。

この質問に対しては一般市民は設問1以外はすべて○としていたが、SV経験者では明らかに異論がありました。

<考えよう>

参加者への質問：

「これまでの人生で、自分が常識だと思っていたことが通じなかったことはありましたか？異文化は外国だけではなく、あなたが日常生活で感じた違和感(地域、世代、職場、学校などによる違い)を述べてください。」

一般市民は人によって違和感の感じ方が異なっていました。SV経験者の意見は省略。

### 3.7 トータルカルチャーとサブカルチャー

一般市民はサブカルチャーの一例目である趣味を例に、数名の受講生と話し合いました。これをきっかけとして自然に会話の輪ができ、異文化交流の場ができました。

トータルカルチャー

私たちが一般的に文化と言う場合、それは日本文化、アメリカ文化、中国文化、韓国文化など国単位で考えることが多いと言えます。このような文化をトータルカルチャーと呼びます。

サブカルチャー

トータルカルチャーの中にはさらに小さな文化が存在します。例えば自分が住んでいる地域、職場、出身地、家族、趣味のグループ、宗教などです。このような集団は、小さいながらも共通の概念で結ばれています。これらの文化のことをサブカルチャーと呼びます。サブカルチャーは他の人を知る上で役に立つことがあります。

### 4. 講義全体についての印象

上記のテーマごとに参加者に考える時間を与え、なるべく多くの方に発言してもらうよう促しました。発言者の意見については否定も肯定もせずなるべく次の発言者につなげられるよう配慮しました。

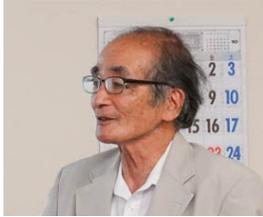
一般市民の方々とは終始和気あいあいの雰囲気のもと、参加者との対話を通じて異文化の理解がなされたと感じます。またSV経験者とも活発に意見交換ができ、報告会参加者に対して一方通行にならないような進め方で理解を深めて頂けたかと思えます。

## 演題：中東の歴史文化について

小久保亮一（環境化学、化学工学；ヨルダン2回）

### はじめに

私の滞在期間中はパレスチナ紛争が最も過激だった時期で、赴任直後に911テロが起きヨルダンにも激震が走りました。最初の派遣終了直前にはアメリカのイラクへの戦争が始まり緊急帰国しました。2回目の派遣のときもパレスチナ紛争は続きイラクも大混乱でした。



赴任直後に911テロが起き、パレスチナ難民出身の職場の同僚が「あれは日本赤軍が？やった！」と歓声を上げていました。その歓声の意味が当時は全く分かりませんでした。私は「日本赤軍にはそんな力は残っていません」とだけ答えたのを覚えています。

私は、その時から、長い間イスラム社会について資料をあつめて考えてきました。それが、彼らと4年間共に生活した人間としての責務であると考えていました。今回は、パレスチナ問題の経緯を私の視点からまとめましたので、その結果を発表します。

### イスラムについて

ヨルダン赴任初日の夜明けに大音響で目が覚めました。これは「アザーン」といい1日に5回お祈りの時間を伝えるモスクから流れる大音響でイスラムとの私の最初の出会いでした。ただ驚くばかりでしたが次第にどこか心が癒されるようになります。ムスリムは六つのことを信じ五つのことを行いこれを「六信五行」と云います。

**六信** ①アッラー（唯一絶対の神） ②天使（神と人間の間にいて神の言葉を伝える） ③啓典（コーラン） ④預言者（ムハンマドが最後の預言者） ⑤来世（この世の終末のあと、人は生前の姿に戻され、神によって最後の審判を受ける。生前の信仰や行為によって天国に行くか地獄に行くかが決められる） ⑥天命（この世のものすべてが、神の意思によって決められている）

**五行** ①信仰告白「アッラーのほかには神はなし、ムハンマドは神の使徒なり」とアラビア語で唱える） ②礼拝（一日に5回メッカの方向に礼拝する） ③断食（ラマダン月の1カ月、日の出から日没まで飲食を断つ） ④喜捨（財産の一部を差し出す。収入の2～2.5%目安、困っている人のために使う） ⑤巡礼（巡礼月に聖地メッカに行き、お祈りする。一生に一度は行くことが望ましい）

読んでいてお解りのようにこの宗教が、テロの原因ではありません。実際に任地での同僚たちは、皆温厚な人たちでした。

### 中東混迷の原因

イスラムの最後の預言者ムハンマドは後継者を決めないまま他界し後継者争いで、スンニ派とシーア派に分裂しました。その宗派対立が混迷の一つの原因です。特に宗派対立と民族対立とがかさなると厄介な紛争になります、イラクとシリアがその例です。さらに大きな混迷の原因は、第一次世界大戦で敗北したオスマン帝国の問題です。アラビア半島の国々は第一次大戦まではオスマン帝国の領土でした。この領土が一次大戦の勝者

の都合で分割したので混迷が続いているのです。イギリスの三枚舌外交が混乱に陥れたのです。オスマン帝国と戦うイギリスが互いに矛盾する三つの外交政策で戦いを有利に切り抜けようとなりました。

その一つは「フセイン・マクマホン協定」です。イギリスと共に戦い勝利したらオスマン帝国から奪い取った領土にアラブ人の独立国家をつくるという協定です。イギリスはアラビアにくわしいロレンス将軍を派遣しアラブ人と共にオスマン帝国と戦わせました。（映画「アラビアのロレンス」の史実）

二つ目は「バルフォア宣言」です。これは戦費をユダヤ人に負担させるためにオスマン帝国に勝利したらパレスチナの地に「ユダヤ人コミュニティー」をつくるという宣言です。

三つ目は「サイクス・ピコ協定」という英仏露の密約です。中東専門家サイクスと仏の外交官ピコが原案を作成した分割案でオスマン帝国から奪い取ったアラブの地はこの三国で分け合うという協定です。最初の二つとは矛盾しています。その後ロシア帝国が革命で崩壊し革命新政権はこの密約を暴露。結局アラビア半島はこの密約にほぼ従い英仏で分割し、英仏の委任統治が開始しました。

### イギリスの委任統治の挫折

挫折のきっかけとなった二つのテロ。

- ・1946年キング・デイビット・ホテル爆破事件：イギリスはこのホテルに英軍司令部を置いて統治していました。このホテルをイスラエル過激派が爆破し一般客を含む英軍司令部員を殺害。
- ・イギリス兵殺害事件：イギリス兵2名がテロリストに殺害され遺体が街につるされた。

つるされた遺体の写真はイギリス本土にも伝わりイギリスは委任統治を諦めイスラエル問題を国連に丸投げしました。この二つのテロはバルフォア宣言の影響で委任統治は話が違ふとの思いが爆発したものと考えられます。

### 国連のパレスチナ分割決議（1947年11月29日採択）

英の委任統治が終了後の不公平な分割決議もまた新たな混迷の原因となります。決議の内容は「パレスチナの地を、ユダヤ人とアラブ人の2国に分けエルサレムを国際管理に置く」というものです。この地にユダヤ人が占める全人口に対する割合は三分の一ぐらいなのに56.5%の土地がユダヤ人に割り当てられまたどのように分割するかについての国連の調査にユダヤ人は参加し砂漠のような荒地の所有を要求し認められたのですがそこにはウラン鉱石が埋葬されていました。この様にこの国連の分割決議案は量的にも質的にも大変不公平でした。パレスチナ側はもともと自分の土地だという意識で国連の分割案などんでもないという気持ちで予備調査にも多分参加しなかったのがユダヤ人側の意のままになったのでしょうか。分割案の採決は、賛成33、反対13、棄権10で可決しました。

### パレスチナ紛争

意のままになったイスラエルは翌年の1948年5月14日イスラエルの建国を宣言。既に結成されていたアラブ連盟は建国宣言に猛反対して中東戦争が勃発します。

**第一次中東戦争**（1948/5/15～1949/3/10）

イスラエル建国にまったく承服できない既に結成されていたアラブ連盟は建国の翌日一斉に攻撃を開始。当初は優勢であったが、国連による停戦協議中イスラエルは体制を整備し反撃に転じ、指揮命令系統が乱れたアラブ連盟に圧勝大幅に領土を拡大。

### 第二次中東戦争（1956/7/26～1957/3）

エジプトのナセル大統領スエズ運河国有化を宣言。国際管理したい英の交渉は難航。10月29日、イスラエルがシナイ半島に侵攻。英が両国に撤退を勧告。イスラエル撤退エジプトは拒否。エジプト拒否を口実に英仏が31日に参戦。その後米ソが英仏イスラエルに即時撤退を通告し国連も即時停戦を決議。エジプトはスエズ運河国有化に成功。

#### 情勢変化

1964年PLOが結成、ゲリラ戦が多発。シリアでも親PLO政権が成立。ゴラン高原からイスラエルを砲撃イスラエルも反撃。

### 第三次中東戦争（1967/6/5～10）

ソ連の偽情報などにより、エジプト、シリア、ヨルダンが軍を集結、これを察知したイスラエルは米に仲介を求めるが米はベトナム戦争で不可。イスラエルは敵国の空軍基地を奇襲し制空権を制し地上戦を展開、エジプト領ガザ地区、シナイ半島、シリア領ゴラン高原、ヨルダン領ヨルダン川西岸を6日で占領。

#### 情勢変化：イスラエルを脅かした反イスラエル紛争とテロ

1967年10月21日 エイラート事件、イスラエル海軍駆逐艦エイラートが北アフリカ北島沿岸で哨戒中エジプト海軍の対艦ミサイル攻撃を受けて撃沈。この事件により第三次中東戦争で大敗したアラブ側の士気が高揚。エジプトの消耗作戦（戦争ではないが平和でもないイスラエルを消耗させる作戦）の開始。

1972年5月30日 テルアビブ空港（ロッド空港）無差別大量銃撃事件、PFLPが計画し日本赤軍3名）が実行。ユダヤ人に銃を乱射、無差別大量殺人事件。26名死亡73名負傷。エールフランス機で武器を預入荷物でパリからテルアビブに持ち込み凶行。

1972年9月5日ミュンヘン5輪のイスラエル選手団人質殺害事件、ミュンヘン5輪のイスラエル選手団宿舎にPFLPが侵入2名殺害し9名を人質にとりイスラエルで収監されているパレスチナ人234人全員の釈放を要求。交渉がもつれイスラエルの人質9名全員が自爆テロに巻き込まれ死亡。

#### 第四次中東戦争前の国際情勢

1970年サダト大統領就任、親ソ外交から親米外交へ転換。米の仲介でイスラエルとの交渉を打診。米キッシンジャー国務長官は「勝者の分け前を要求してはならない」と仲介を拒否。エジプトはイスラエルとの戦を決断。

### 第四次中東戦争（1979/10/6～24）

エジプトはシナイ半島をシリアはゴラン高原の奪還を狙い同時にイスラエルへの奇襲攻撃開始。イスラエルには米がアラブ側にはソ連が支援、さらに、イラク、ヨルダン、モロッコ、サウジアラビア、スーダン、シリア、リビア、クエート、チュニジア、パキスタン、レバノン、PLOなどが参戦。開戦直後アラブの同時奇襲が成功数日でイスラエルが反転優位に展開。再びエジプトの敗退を懸

念した米ソの主導で国連安保理の停戦決議成立。イスラエル作戦を中止し鎮静化。エジプトはシナイ半島を奪還しイスラエルの建国を認めた。ゴラン高原はイスラエルが占有を宣言。

#### 第四次中東戦争の影響

①戦争はイスラエル優勢のまま終わりエジプトは米を味方にシナイ半島奪還成功 ②米の力を世界が認め米ソ主導による国連安保理が第三次世界大戦を阻止 ③OPECは親イスラエル国へ原油輸出禁止OPECは原油価格を値上世界は第一次オイルショックへ ④アラブ側の同時奇襲攻撃に苦戦し不敗神話の破れたイスラエルのメイヤ首相辞任シラビンに首相の座を譲る。

#### アメリカの同時多発テロ（2001/9/11）

1979年ソ連がイスラム国アフガニスタンに軍事侵攻したのでオサマビンラディンを含む世界中のイスラム聖戦士がアフガンに終結しソ連と戦います。これがアルカイダです。アルカイダはソ連と苦戦し苦戦するアルカイダに米がパキスタン経由で武器を供与します。パキスタンはその米の武器の一部とアフガンからの難民を結び付けて新たなイスラム武装勢力を育成します。これがタリバンです。タリバンはその後アフガンで暫定政権を樹立します。以上がアルカイダとタリバン誕生の経緯です。

米の武器供与を受けたアルカイダはソ連を苦しめソ連は次第に疲弊し1988年頃から弱体化し1989年にアフガニスタンから撤退します。ソ連と戦う必要がなくなったオサマビンラディンは祖国に戻り、アフガンはまた内乱状態に戻ります。1989年に米ソ首脳によるマルタ会談で東西冷戦終結が宣言され1991年にはソ連が崩壊します。これで世界は民主化に向けて動き始め中東のイラクにもその影響が及んだのでしょうかそれまでくすぶっていたイラクのフセインの大きな不満が突然大爆発します。これが湾岸戦争です。

湾岸戦争の詳細は割愛します。イラクの軍事侵攻をサウジアラビアが恐れ米軍の国内駐留を承認し実際に米軍は駐留します。これに激怒したオサマビンラディンは国王と激しく対立し祖国を追われスーダン経由で再びアフガニスタンに戻り今度はアメリカと戦うアルカイダを強化し911テロを計画し実行。

#### まとめ

以上、中東の歴史文化について説明しましたが、パレスチナおよびアフガニスタンなどの苦難の戦争や移民の問題はイギリス、アメリカ、ロシアなど大国の意思と利害に翻弄された歴史によるのであり、アメリカ、イギリスなどで起こるテロも、元をたどればこれら大国の軍事、外交の介入によるという事をご理解頂けたと思います。

#### パレスチナ難民支援

ヨルダンでのパレスチナ難民支援は各国大使館とJICAの大切な仕事でした。私の妻は自分の特技を生かし支援活動に参加しました。妻はパレスチナの伝統的民族衣装を飾るパレスチナ刺繍の手作りの作品で支援活動に参加しました。



## 出前講座レポート (2022年2月～2022年7月)

### 「ブータン王国から見た幸せとは」

講師 三輪 達雄

私は、標記のテーマで過日2カ所において、出前講座を行いました。

- ・5月11日、酒々井町中央公民館でシニア世代男女12名
- ・7月5日、柏市の富瀬東小学校で6年生15名

私は、まず、自己紹介として獣医師であること、第2の人生としてJICAのシニアボランティアに応募し、2013年7月から2年間、ブータン王国に派遣されたことを紹介しました。



私は、全国に協同組合を立上げ、農業の近代化や商業の発展を促すのを助けるため、派遣されました。これは、長年日本の酪農生産にかかわってきた獣医師としての経験を生かすのに最も適した場所でした。

ブータン王国が世界でも注目を浴びたのは、GNH（国民総幸福）という考え方を国の指標としたことです。これは、先進国などで豊かさの指標とされるGDP（国民総生産）を追求するための施策ではなく、国民が幸せだと思える施策をとるとしたことです。

講演は、「ブータンが何故このような考え方を持つのか。」を聴衆に問い、ブータンの幸福観は、地理的特性や仏教文化によって形作られたことを説明しました。

#### 地理的特性

ブータン王国の面積は九州とほぼ同じです。緯度的には沖縄や台湾に近く亜熱帯に属しますが、標高はインド国境の100mから中国との国境であるヒマラヤ山脈の7000m以上まで、いろいろな気候が存在していて、傾斜地が多く本当に耕作をするのにも大変な地域です。

ブータンは、地理的地形的な影響から他から隔絶され、人類が狩猟採集生活から定住社会に移る移行期のような社会です。

それでも、米は、全国的に広く栽培されています。その他の野菜として唐辛子が栽培されていました。

ブータン王国には海がありませんから魚は手に入りません。また

仏教上の戒律から肉は食べることができません。したがって、唯一のたんぱく源はチーズになります。

ブータンは、地理的影響で農耕はまだ機械化が進んでいません。このため、どの農家でも牛を1～2頭飼っています。オスは農耕に使いますが、メスからは牛乳を搾りチーズに加工しているのです。



料理は、おかずは唐辛子をチーズで炒めた「エマダチ」と言われるものがほぼ毎日食べられます。ちなみに、写真の彼が食べているのは「青唐辛子のチーズ炒め」と「大根の赤唐辛子炒め」で、これらをおかずで手で米を丸めて食べています。

#### チベット仏教の影響

ブータン国民は敬虔なチベット仏教徒であるため、仏教の教えである「輪廻転生」を、強く信じています。この「輪廻転生」はすべての生き物は生まれ変わるという考え方です。

例えば、目の前に飛んでいるハエはご先祖様の生まれ変わりかも知れない。足元にじゃれている犬は将来の自分かも知れないと信じているのです。ですから湯飲みに落ちたハエも掬って逃がしてやるし、噛みついてきた犬も叩いたりしません。仏教の戒律である「不殺生戒」を強く守っているのです。

#### 「ポブジカ谷」の村人の選択

自然との共存を大切にしているブータン人の行動として世界的に有名になったのは「ポブジカ谷」の村人の選択です。ポブジカ谷は7000mのヒマラヤ山脈を越えてチベットから飛来する「尾黒鶴」の飛来地として有名でした。政府はこのポブジカ谷に電気を供給したいということで、村に電線の無償建設を提案しました。しかし、村人の答えは「ノー」でした。電線を張れば鶴が引かかって怪我をするから自分たちは電気を諦めるというのです。

この話は世界中に知られ、世界中から寄付金が集まり、ポブジカ谷の電線はすべて地中化されて、今では村人も電気を甘受し、鶴たちも安心して毎年渡って来ることができています。



#### まとめ

チベット仏教の教えである自然との共存を追求する姿勢は世界の注目を集めています。

また、日本人である我々にも考えさせてくれる幸福観であると思います。

## 環境に優しい国コスタリカの自然と生活

### 講師 服部 正

今年の6月に「八街市いきいき短期大学」、そして7月に「八街市国際理解大学」の講師として、コスタリカをテーマにした講演を行いました。どちらの講演においても聴講者のみなさんの関心度は高く、しっかり話を聞いていただき、講演後は積極的に質問もいただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。



#### サッカー熱

今、コスタリカはとても盛り上がっています。実は、6月15日に2022年サッカーワールドカップカタール大会の大陸間最終予選で、ニュージーラ

ンドに勝利したからです。その日は私のコスタリカとの連絡網ワズアップに60近い喜びのメールが入っていました。その日は試合が終わるまでは仕事にならないだろうと、公務員ですら試合の終わる午後2時過ぎまで長い昼休みが許されたそうです。人々は大型スクリーンの前や町の中心街に多数集まり、試合経過に一喜一憂していたようです。勝利が決まると、人々は抱き合い、歌を歌い、踊り狂い喜びを表現していました。中米のワールドカップ予選は北アメリカ、中米、カリブ海諸国で3.5か国が本戦に進めるようで、カナダ、メキシコ、アメリカがすでに進出を決めていたようです。

コスタリカは日本と同じ予選グループに入り、そこにはスペインとドイツがいるので、お互いかなりの苦戦が予想されています。

#### コスタリカの概要

JICAはアジアやアフリカそして中南米などの発展途上国に対する協力をを行っている組織です。現在世界には196の国々が存在しますが、残念ながらすべての国が豊かであるとは限りません。ご飯が満足に食べられない国、病気になっても病院に行けない国、年齢に達しても学校に通えない国などがまだまだたくさんあります。あるとき、世界中の国々の人々が一堂に集まり、どのようにしたら世界中の人々が幸せで豊かな生活を送ることができるかを話し合い、その結果出てきた結論がいま世の中で盛んに言われているSDGsです。全部で17の目標とそれぞれに具体的な内容も示されています。JICAの活動はこの目標達成にもリンクした活動になっています。中米の国コスタリカは、パナマの北側に位置し、人口約500万人、国土面積は日本の九州と四国を合わせたぐらいの小さな国です。国は良く整備されておりコスタリカは開発途上国のイメージではありません。フィリピンのマニラやベトナムのホーチミンと同じような緯度に位置する常夏の国ですが、多くの人々は1000m以上の高地に住んでいるため、年間を通して最高気温が25～30度の常春のイメージです。

#### 私の活動

さて、私のJICAでの活動は、子供達への体操競技の指導でした。学校体育が十分ではないので、前転や倒立の指導だけ

でもかなりの時間を要しましたが、子供達は好奇心いっぱいでも熱心に取り組み、実りある時間を共有できたと感じています。2021年の東京オリンピックに、コスタリカからも1人の女子選手が参加しました。厳しい大陸間予選会を勝ち抜いたエリートです。ビデオで演技を見ましたが、表現力たっぷりに演技していて感動しました。コスタリカでは全演技がテレビ放送されたようです。

#### エコツーリズム

そして、現在のコスタリカを語る上で欠かせないのが、エコツーリズムの聖



幻の鳥ケツァール

地といわれるコスタリカの取り組みです。現在全世界に生存する動植物の約5%がコスタリカに生息しています。元々は熱帯の国ですが、高い山々が存在するので亜熱帯の地域も多く存在します。また、1年中カリブ海から湿気を含んだ風が大陸に吹き込み、山を越えるときに多くの雨を降らせませす。カリブ海側はジャングルのような熱帯雨林帯、山には一年中霧の晴れない熱帯雲霧林、そして風が通り過ぎる太平洋側は、サバンナのような気候になっています。このようなコスタリカ特有の自然環境が、多くの動植物を生息させる理由になっています。その自然環境を守り、そのまま人々に見てもらおうとする取り組みがエコツーリズ



熱帯雲霧林

ムであり、現在のコスタリカでは、外貨獲得の大きな財源にもなっています。コーヒーやバナナ生産が中心の農業国から、観光業を中心としたサービ

ス業に政策転換を図り、その結果ガイドやホテル経営など多くの職業も生み出しています。

#### 地球幸福度ランキング

更に、コスタリカを語る上で欠かせないのが、地球幸福度ランキング調査です。2009年から2016年まで3～4年に1度発表されているランキングでは、3回連続で世界NO.1になっています。2021年度では16位に後退しましたが、それでも56位の日本よりかなり上位にあります。国民1人あたりのGNPや健康寿命などの客観的データでは日本のほうがかなり勝っています。それでは何故？ 例えばコスタリカには軍隊がありません。そのお金を教育と医療に回すことを国民が理解し、後押ししています。環境先進国になり、エコツーリズムを推し進めることを全国民が賛成しています。再生可能エネルギーへの転換をほぼ100%すでに達成しています。国と国民の一体感が大きく日本と異なっています。国民が自分の国に強い愛着を感じている結果だと思われます。

## JICA海外協力隊派遣に伴う県庁訪問及び連携の活動

### 2022年1次隊の県庁表敬訪問と壮行会

JICA海外協力隊2022年1次隊の県庁表敬訪問と壮行会が、7月13日に2年ぶりに行われました。三輪会長と高瀬事務局長が出席しました。

しばらく壮行会がなかったので、当会の会長等の現役員は、壮行への参加経験がありませんでした。実施形態や協力隊の制度変更に伴う変更はあるのかなど関心があると思いますので、県庁での要人の発言の内、特にJICAからの挨拶を記載します。

まず、県庁表敬訪問は県の主催で行われ、JICA東京（千葉デスクを含む）、千葉県JICA協力隊を育てる会、千葉県JICAシニアボランティアの会、青年海外協力隊千葉OB会が来賓として招待されました。



続いて、壮行会が実施されました。壮行会の主催は千葉県JICA協力隊を育てる会と青年海外協力隊千葉OB会です。昼食を取りながら、派遣者の挨拶や参加した会の代表者から壮行の言葉があり、育てる会から派遣者に贈り物も送られるという形態で行われました。

### JICA東京センター総務課長 中川亨之氏の挨拶

今回は2年ぶりの対面での表敬訪問、なんとか通常派遣に近い形で派遣ができるようになってきました。受け入れ国側の期待も高い、皆様の活躍を期待しています。途上国と言う異文化の中でこれから2年間活動されますが、試行錯誤の中でコミュニケーション能力、ニーズを汲み取って相手に寄り添う力とか、企画実行などを身に着けられていくものと思います。そういう経験は個人のみならず日本の社会にとっても大きな財産と考えています。そういった経験をご帰国後も地域に還元していただきたい。

JICAとしては、途上国の課題解決だけではなく、日本国内の

地域の創生、地域との連携にも強くかかわっていきたくと思っています。JICA国内機関は、その結節点としてその役割を果たして行きたい。今回派遣される皆様、自治体の皆様、大学、企業、NGOや様々な市民社会の皆様と一緒にやっていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

### 2022年2次隊の県庁表敬訪問と壮行会

2次隊の県庁表敬訪問と壮行会が9月13日に行われ、当会から佐々木幹事が出席しました。

最初に、出発隊員5名(内シニア1名)を



含め出席者全員の紹介がありました。次にJICA東京センター市民参加協力第1課長徳田進平氏より挨拶がありました。

出発隊員全員の自己紹介と決意表明がありました。

県側からの激励のことは、千葉県総合企画部地域づくり担当部長富沢昇氏からいただきました。

続いて壮行会は、前回と同じく三井ガーデンホテル日本料理汐菜で行われました。

主としてシニア海外協力隊としてマレーシアに派遣される永江さんとお話をしました。永江さんはコンピュータ技術者として、マレーシアに派遣されます。職業訓練校において教材のデジタル化事業を主としてご担当されるということです。

帰国後はSV会にご協力いただけるということです。また、赴任中のレポート記事との投稿も可能とのお約束をいただきました。

### OB会との連携について中間報告

総会でJICA東京田中所長、その他会員との意見交換により、本会の今後の方向性について、OB会との連携を深めるという合意がえられました。

その後、千葉ディスク木村様の仲介でSV会OB会の合同会議を6月22日にオンラインで行いました。両会の連携を強化する方向で検討するということが合意されました。

#### 2022年度 役員

・会長 三輪 達雄 (我孫子市)  
 ・副会長 添野 良一 (鎌ヶ谷市)  
 ・事務局長 高瀬 義彦 (柏市)  
 ・会計監査 登内 明 (浦安市)

・幹事 中西 陽典 (我孫子市)  
 ・幹事 吉田 啓一 (多古町)  
 ・幹事 佐々木 英夫 (流山市)  
 ・幹事 畑野 郁子 (習志野市)

・幹事 服部 正 (八街市)  
 ・幹事 黒田 啓嗣 (野田市)  
 ・幹事 江田 隆正 (千葉市)

#### 会員動向 会員数 73名 (2022年8月現在)

派遣中の会員は、コロナの影響を受け中断されていましたが、一次隊として出発された岡崎英子氏の1人のみです。